

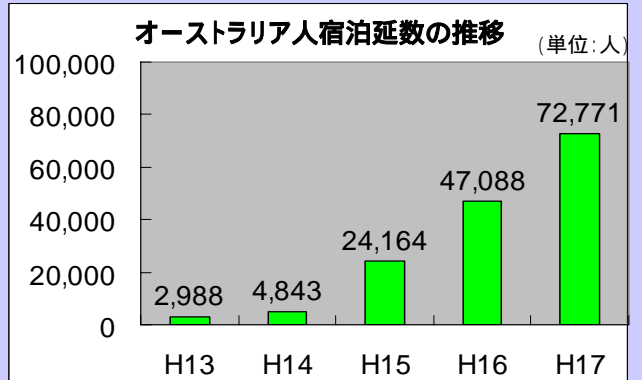
注目ポイント！

世界一の雪質と地域のホスピタリティーでオーストラリア人観光客が急増。

約3,000人(H13)

→ 約73,000人(H17)

官民一体となった「まちづくり」で国際リゾート地へ。



冬のニセコ山系

コラム

パウダースノーの魅力に惹かれてニセコへやって来た1人。冬のスキーによる観光しかなかったニセコ地域に、ラフティングなど夏の体験観光の魅力を付加するためNAC(ニセコアドベンチャーセンター)を設立し、広く国内外から観光客が集まる通年観光地に変貌させた。また、「日本リバーガイド協会」の設立、「北海道アウトドア資格制度」の創立等にも貢献している。



NAC代表 ロス・フィンドレー氏
「通年型アウトドア体験観光のカリスマ」

これまでの経緯

- 平成4年(1992年) ロス・フィンドレー氏が倶知安町に移住する。
- 平成7年(1995年) NAC設立により、ラフティングを事業化する。
- 平成15年(2003年) ニセコ高校の観光プロジェクトを開始する。(英語表記)ドライブ観光振興のための取り組みをスタート。
- 平成17年(2005年) 倶知安商工会議所による「英会話教室」スタート。北海道後志支庁が主体になり、滞在型観光促進整備事業を開始する。観光ポイント周遊バス「ぐるりぬぷり号」実証実験を実施。
- 平成18年(2006年) 観光ポイント周遊バス「ぐるりぬぷり号」を事業化する。

主な取り組み

ニセコ高校での観光プロジェクト

ニセコ高校では、授業の一環として外国人観光客の利便性増進を目指し、英訳による時刻表や乗降方法等を掲示した案内板を作成し、地域観光の取り組みをバックアップ。



作成した時刻表の前での生徒達

滞在型観光の促進

冬季に外国人スキーヤーで賑わうこの地域で、北海道後志支庁が主体となり、スキー以外の魅力を高め長期滞在を促進するため、体験メニュー、JRとバスの企画切符やオプションツアーの造成など受入体制の整備を推進。



ペイントボールを楽しむ観光客

英会話教室で人材育成・雇用創出

豪州を中心とした外国人観光客が増加する倶知安町で、地元商工会議所が主体となり、英語の習得により人材育成と雇用創出を図るため、「実践英会話教室」を開催。



英会話教室での授業風景

魅力的なツーリング観光の提案

“みち”が繋ぐ魅力的な北海道づくりを目指し、行政と地域住民が連携し、様々な活動に取り組んでいる。その一つに、地域から提案のあった場所に「シーニックデッキ」を設置し、新たな景観ポイントとして紹介し、地域財産として育てている。このように地域の魅力を繋ぎ、北海道でのドライブ観光の振興を推進。



シーニックデッキの様子

観光交通の充実

地元バス事業者が路線バス「ぐるりぬぷり号」を運行。観光客のニーズが高く、また、地域の人々にとっても訪問価値が高いと考えられている観光ポイントを周遊。



ニセコ周遊ぐるりぬぷり号

問い合わせ先

北海道後志支庁
産業振興部商工労働観光課観光振興係
Tel : 0136 - 23 - 1365 <http://www.shiribeshi.pref.hokkaido.lg.jp/>